

臨床研究に関する情報公開

＜人を対象とする医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞ 気管孔閉鎖における 2 枚の hinge flap と 1 枚の cover flap を用いた探索的観察研究
＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部附属板橋病院 耳鼻咽喉科 (研究責任者) 中村 一博
＜研究期間＞ 承認日～西暦 2022 年 3 月 31 日
＜研究の目的と意義＞ 何らかの疾患で気管切開をうけたあとに、病状がよくなって気管切開孔が不要になることがあります。その際にカニューレを抜去することで自然閉鎖することが多いですが、なかには閉鎖しないこともあります。閉鎖しないときには気管孔閉鎖術が必要となります。気管孔閉鎖術には多くの術式がありますが、当科の術式は低侵襲で閉鎖率が高く合併症の少ない術式です。当科の気管孔閉鎖術は気管前壁を 2 枚の皮弁でつくってその上に 1 枚の気管の前壁を被覆する皮弁をおいて気管孔を閉鎖する術式であります。当科の術式のいいところは、①低侵襲かつ少ない合併症で確実に閉鎖できること、②傷がつきにくい合併症が予防できること③気管内腔が狭窄しないこと、④おおきな気管孔でも、ちいさな気管孔でも閉鎖可能であること、があげられます。本術式と治療成績を報告します。
＜利用する試料・情報の項目＞ 年齢、性別、診断名、基礎疾患、気管孔開存期間、気管孔サイズの情報を利用させていただきます。
＜対象となる患者さん＞ 2001 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日までに本術式を用いて気管孔閉鎖術を施行した 23 症例の患者様を対象と致します。
＜研究の方法＞ 術前の気管切開孔のサイズを計測し本術式で閉鎖できるサイズを検討します。また、術後には創部からのエアリークがないことを内視鏡や断層写真を用いて解析し評価いたします。
＜お問い合わせ窓口＞ 日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1) 耳鼻咽喉科 氏名:中村 一博 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2542 (PHS)8686